

# あしたば通信

No.6

発行日  
令和 5 年  
(2023 年)

**6 月 1 日**

発行：特定非営利活動法人  
タンポポ福祉会  
高砂市曾根町 2835 番 2  
TEL. 079-448-8393

HP アドレス <https://www.tanpopofukushikai.org>

## 理事長からの言葉

ゴールデンウィーク後の 5 月 8 日をもって新型コロナウィルスが 2 類から 5 類に変更されました。コロナがインフルエンザと同じ扱いになったことにより、社会生活の色んな面での制限が取り払われていることで、コロナ終息のイメージが広がっているように思われます。

しかし、実際には 5 月以降、感染者数は少しずつ増加しています。現在、マスクの着用は個人判断となっていますが、当作業所では当面これまで通り、室内でのマスク着用、アルコール消毒は継続することにしました。人々の交流が活発になって、今後感染者数がどのように変化するか見極めていこうと考えています。

皆様のご協力により、当作業所ではこれまでクラスターが発生することはありませんでした。改めてご協力に感謝申し上げますと共に、今後も引き続きご協力をお願いする次第です。

## 1 階内職班からの報告

4 月に松陽高校西側の桜並木のトンネルを散歩して、「きれいやなあ〜」「見て！つぼみもあるで」「この桜ってサクランボなるん？」など、みんなで感想を言いながらお花見を楽しみました。また、ここ 3 年コロナ禍で行えなかった外出レクリエーションを 4 年ぶりに行いました。今回はイオン高砂に行き、各自持っている金額で買いたいのを考えたリ、計算したりしながら、買い物を楽しみました。

今回は利用者の松田さんに感想を聞いてみました。「みんなでお買い物に行けて楽しかった。またいろんな所に出かけてみたいです（松田）」。

5 月のレクリエーションではフオトスタンドに好きな花（造花）を選んで配置を考え、グループで取り付けたフラワースタンドを作りました。とても素敵な母の日のプレゼントになったと思います。これからもこの様な外出やレクリエーションの機会を作っていきたいと思っています。

## 地域の歴史に目を

あしたばの家の所在地であり、その多くの利用者の居住地でもある高砂の歴史について少し触れたいと思います。高砂は兵庫県下最大の河川である加古川が播磨灘に合流する地理的要衝に位置し、その利便性により古くから港町として隆盛を誇りました。

江戸時代、港には多くの商家が立ち並び、加古川周辺の産物を河川水運でこの地へ運び、集積させ、大阪、江戸といった大都市へ運ぶ海運の中継基地でありました。4 月に開設した相談支援事業所名を「みなと」にしたのも、高砂がかつて港町とし



1 階内職班で製作したフラワースタンド

て栄えてきたことにも由来しており、今でも高砂町商店街付近では往時の町屋敷風情を残すエリアが残っています。

近代以降は、その臨海の遠浅の地形を利用した埋め立て地の工業建設が進み、戦時中は軍需産業の集積地でもありました。戦後は重工業、食品加工の進出が活発化し、播磨臨海工業地帯の中軸を担う発展の道を歩んできました。このように自分たちが普段生活している地域の歴史の軌跡を辿ることも実に興味深いことといえるでしょう。



高砂に今も残る旧商家街